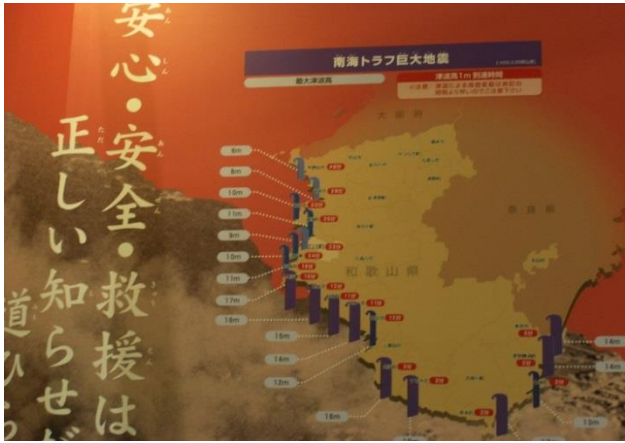


NEW!

館内展示がリニューアルされました

～津波防災教育センター内 展示の一部～



東日本大震災以後、想定が見直され、「稲むらの火の館」内の展示情報を一部リニューアルしましたのでお試し下さいね。

「稲むらの火の館」26年度の実績

平成26年度が終了いたしました。「稲むらの火の館」の1年間を振り返ってみます。

この1年間の総入館者数は、31,692人でした。その内、小中学生は9,200人です。10月には、開館以来25万人を突破いたしました。東日本大震災以来、3年間は毎年4万人以上の来館者を数えていましたが、若干減少ぎみになっております。しかし、小学校の教科書に掲載されていることもあり、防災教育の一環として依然注目を受けております。

テレビ和歌山の新番組

「～強く しなやかに～
国土強靱化が郷土を救う」

NEW!



という番組が4月12日から始まっています。第2・4日曜日夕方6時15分から15分間の放送です。

5月24日、6月14、28日は広川町の防災や「稲むらの火の館」が放送される予定です。(再放送は、第1、3水曜日朝8時からです。)

避難所「稲むらの火の館」に

防災ボックスが設置されました

「稲むらの火の館」は一次避難場所になっているのはご承知のことと存じます。この程、正面右側のスロープ横と南側入り口横に、ボックスが付けられました。このボックスは震度5弱の地震を感じると施錠が解錠され、中には「稲むらの火の館」へ入るカギが入っています。これにより、係員が来なくても誰でも避難できるようになりました。



この中に「稲むらの火の館」へ入るカギが入っています。



↑ 正面右側のスロープ横



↑ 南側入り口横

広川町の昔の写真募集

以前にも募集しましたが、広川町内の昔の写真を探しています。特に「稲むら(ススキ)」や「広村堤防」「天洲の浜」等があれば、なおうれしいです。



小学校の教科書に今回も「濱口梧陵」 「稲むらの火」が掲載されました

本年4月、小学校の教科書が改定されました。これまで、「濱口梧陵」「稲むらの火」がいくつかの教科書に掲載されていましたが、今回も国語や社会など、複数の教科書に掲載されています。小学生たちは、教科書を通じて津波防災を勉強することになります。



もう既に、和歌山県下ばかりでなく、大阪府等からも小学生の社会見学のための見学申し込みが入り、防災教育への取り組みが盛んです。中には、修学旅行の日程に組み込まれてもいます。和歌山県が修学旅行を誘致するための「修学旅行ガイド」の中にも、本館の案内を入れて関東方面へも働きかけているようです。

小中学生、高校生も「稲むらの火の館」で防災教育を受け、災害から身を守ることを心がけていただきたいと思います。



<昭和の南海地震・津波体験談> 募集

昭和21年12月21日朝未明に大きな地震がありました。広川町へも約4mの津波が押し寄せてきました。

この地震・津波の体験談、広川町での被害の様子の写真等があれば提供してください。

大きな災害を伝承するのに必要です。28年水害の被害の写真もあれば、お願いします。

お客様の声

1、消防署に勤務しています。今日は、子供を連れてきたのですが、館内の展示が子供にもわかりやすく、夢中になって見学してしまいました。

災害を次の世代に伝えるためにもこんな施設は必要ですね。遠くからでも来てよかったです。

2、梧陵さんのお墓と碑が建っているという神社に行きたいのですが、歩くと遠いですね。

(レンタサイクルをお勧めすると)

無料で自転車を貸していただけるのですか？ ゆっくり見学できるので助かります。

(レンタサイクルは、返金はしますが保証金が必要です。)



作家のよしだみどり様が、広川町へ来られた際の印象を、全国信用金庫協会の雑誌「楽しいわが家」5月号に掲載されました。「梧陵さん」の話や、道で出会った人々との話、そして広小学校の子供に挨拶されたことなどが記載されています。稲むらの火の館にも本誌を100部いただきましたので、ぜひご覧ください。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館/津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

TEL: 0737-64-1760/FAX: 0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano/hi/>

*開館時間: 午前10時~午後5時(受付終了4時)

*休館日: 月曜日・火曜日(祝日開館)

年末年始(12/29~1/4)

*記念館だけの入場は無料です。